



新渡戸稲造物語

日本と世界をつないだ武士道の著者

あ ら す じ

五千円札の顔、『武士道』の著者として知られている新渡戸稲造は、幕末、盛岡藩士の三男として生まれました。小さいころの稲造はわんぱくそのもの。親の愛に育まれ元気いっぱいになりました。父の死をきっかけに9歳で兄と共に学問をするため東京へ。その後、札幌農学校へ進学し、「少年よ大志を抱け」のクラーク博士の教育思想に触れます。

21歳になった稲造は、「自らが太平洋の懸け橋となる」と決心しアメリカへ。そこで人生の伴侶となるメリーと出会います。ドイツ留学を経てメリーと共に帰国。「貧しい若者にも学びの場を」と夜間学校を創設しました。

その後、当時日本の統治下にあった台湾で農業指導にあたり、「台湾砂糖の父」と呼ばれるまでになります。帰国後は京都大学で教鞭を執り、大正時代に入ると国際連盟の事務局長を務めました。71歳で亡くなるまで、教育、平和のために尽くした人物です。

DVDをより深く子どもたちが理解し、考える力をつけるために

視聴後に、簡単な声掛けや感想を書く事で、子どもたちの理解はより一層深まり、考える力が身に付きます。

- (1) 稲造はどんな子どもだったかな？
- (2) どうして手袋を盗んだと思われたんだろう？
- (3) 稲造が落ち込んでいる時、友達が助けてくれましたが。
もし、キミの友達が落ち込んでいたら、何ができるかな？
- (4) 稲造はどうして戦争に反対したと思う？
- (5) キミは、将来どんなことをやりたい？
そして、それをやり遂げるためには何が大切だと思う？
- (6) 「私はこんな風に思った」「私はここが面白かった」など、
お友達と色々な話をしてみましょう。
また、おうちの人にもDVDで見たことを教えてあげましょう。

